

80年前、旧制宇土中学の生徒が使っていた鞆が見つかりました。鞆の持ち主は小山(旧姓は那須)節郎さん、95歳、第十九回卒業生です。小川町から汽車通学をしていた小山さんの鞆は、第二次世界大戦を生き抜き、敗戦からの復興から高度経済成長、バブル時代とその崩壊、新型コロナウイルスの大流行など、大きく変動する時代の流れを見続けてきました。そして、宇土高校の進化や、輩出してきた各分野の優秀な人材を、2020年に創立100年を迎えた宇土高校がこれまでどんな過去を歩み、これからどんな未来を開こうとしているのか。歴史の鞆を開けて、取り出して行こうと思います。

鞆の記憶



熊本県立宇土高校は、創立100周年という輝かしい年を迎えました。これまで多くの志高き若者が同校の門をたたき、初代校長である生田徳太郎氏が定めた教育の目標「實業剛健」の精神を胸に、文武の研鑽に励んでまいりました。卒業生たちは、手帳健児スリッポンを礎に、産業、経済、スポーツ、教育と、あらゆる分野で活躍しています。創立から二世紀の節目を迎え、同校の歴史を振り返り、新しい時代に向かってさらなる教育の充実に向け、姿をご紹介します。



熊本県立宇土高校 創立100周年特集

本校の創立100周年の事業は、昨年の令和二年度に実施予定でしたが、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、一年の延期ということになりました。創立以来、實業剛健の校訓のもと、伝統を築きあげられた同校生の皆様、本校を支えていただいた地域の皆様へ感謝申し上げます。現在は、県立宇土中学校の設置による中高一貫教育や、サイエンス・ハイスクールにおける様々な活動により、質の高い教育活動が実践できるように取り組んでいます。新たな百年に向けて、人間形成を基盤とした更なる人材育成を目指し、職員・生徒ともに教育活動に精励してまいりますので、引き続きご支援をお願いします。

学校長 森田 淳士



母校は創立100周年を迎えました。創立以来、建学の精神「實業剛健」を旨とする精神と伝統が脈々と受け継がれ、文武両道「全スロ」に掲げ、県内屈指の進学校として多くの実績をあげている母校に心からお祝い申し上げます。

100周年記念芸術展では、同校生の作品の素晴らしさに感動し、宇土高校のポテンシャルの高さを再認識しました。

私たち同窓会は、在校生とともに学びや、彼らの夢の実現ができる環境づくりに協力したいと思えます。また、母校の新たな歴史づくりに貢献のため、精一杯の役割を果たしてまいります。

同窓生の各界での活躍と、健勝を心よりお祈り申し上げます。

同窓会会長 小山 浩一郎



熊本県立宇土高等学校創立100周年おめでとうございます。大正九年からこれまで多くの優秀な人材を輩出され、地域の方にとって誇りある学校であると確信しています。近年は災害や感染症の蔓延等で休校や分散登校となつてしまつたことがありましたが、しかしこのような状況下でも、生徒たちの学びを継続するために、「学びを止めない学校」を創設し、生徒たちが学びを継続できる環境を作ることに努めています。急速に変化する社会、多様な価値観が存在する社会の中で、これからの新たな百年を創出することをPTAも協力しながら応援いたします。

PTA会長 四海 公貴

